

# 新専門医制度 内科領域 モデルプログラム

当プログラムの特筆点を分かりやすく抜粋しました。詳細・お問い合わせはページ下部にある QR コードからご覧いただけます。

## 希望に応じてフレキシブルに対応出来る内科プログラム

豊富な症例数と  
科の垣根を超えた  
充実した指導環境

当科には内科標準コース、Subspecialty 重点コースの2コースがあります。内科標準コースでは連携施設での研修を何年目に行うのかをプログラムの任意に設定出来ます。一方の Subspecialty 重点コースでは Subspecialty に比重を置く期間をフレキシブルに対応できます。また2017年に腎臓病センターが設立され腎臓移植も診られる内科医の育成も日々行われています。



### Subspecialty 重点2年コース

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
専攻医 1年目	Subspecialty 選択科						他内科1	他内科2	他内科3			【目標】 症患者 20以上 症例数 60以上	
	Subspecialty 選択科						1年目にJMECCを受講(プログラム要)						
専攻医 2年目	他内科4		他内科5		他内科6		他内科7		他内科8		他内科9		【目標】 症患者 45以上 症例数 120以上
	連携施設						連携施設						
専攻医 3年目	連携施設 (Subspecialty 重点期間はプログラム内で最長2年)												【修了要件】 症患者 56以上 症例数 160以上 歴要約 29
	初診+再診外来を週に1回担当(プログラム要件)												
その他要件	安全管理セミナー・感染セミナーの年2回の受講・CPCの受講												

※ Subspecialty 重点コースでは、Subspecialty に比重を置く期間を2年間設定する。このSubspecialty の設定時期及び連携施設での研修時期を何年目にするかはプログラムの任意とする。(最終的に修了要件を満たすことが重要です)

◎ 特別地域連携プログラム枠 日本専門医機構が定めた医師少数地域(9県)の連携施設で研修を1年間行うプログラムも可能

### 先輩医師・現役専攻医の声

当科は腎臓外科と一緒に移植を中心とした治療を行っており、やる気次第では外科の手技にも積極的に参加できるところが魅力です。また妊娠・出産などにおいて女性が働きやすいような環境作りに積極的なものもとてもありがたいです。



腎臓内科  
助教 小島 亜希 先生

循環器内科では、若手の医師にもいろいろな手技を上級医の指導のもと、たくさん経験させてくれます。大学病院ではありますが、市中病院のような症例も経験できます。学年が近い先生たちと一緒に切磋琢磨しながら学ぶことができる環境が整っています。

循環器内科  
専攻医 桑原明日香



プログラム統括責任者  
腎臓内科・血液浄化療法室  
科長

副院長 尾田 高志

腎臓病センター  
ホームページ

[hachioji-kidney.jp](http://hachioji-kidney.jp)

※ 上記QRコードは内科専門医プログラム責任科のホームページに飛びますが、内科領域内の各診療科の選択は可能です。



◀ 見学・お問い合わせはこちらから

メール：[h-senmon@tokyo-med.ac.jp](mailto:h-senmon@tokyo-med.ac.jp)

電話：042-665-5611 (代表)

内科専門研修プログラム概要

[h-internal-medicine.com](http://h-internal-medicine.com)

